

湯沢砂防女性モニターレポート第2号

平成 17 年 8 月 30 日

発行 湯沢砂防事務所

<http://www.hrr.mlit.go.jp/yuzawa/>

湯沢砂防では、女性モニターの皆さんと一緒に、より良い砂防について考えています。
去る 8 月 4 日、湯沢町大源太川流域での砂防施設見学会と意見交換会を開催し、さまざまなご意見を戴きました。



プログラム

13:00	挨拶、自己紹介 事業概要、行程説明
13:40	大源太キャニオン付近にて 堰堤と記念碑の見学
14:10	板木砂防堰堤見学
14:30	大源太川床固工群見学
14:50	バス内にて質疑応答
15:10	事務所着、意見交換会
16:00頃	終了・解散



会議室での顔合せ。モニターは新人 2 名を含む 9 名の方が参加

< 大源太川第 1 号砂防堰堤 (アーチ式堰堤) >



吊り橋の上から大源太川第 1 号砂防堰堤を見学する女性モニター

大源太川は、谷川岳に連なる大源太山に源を発し、岩原スキー場の前を流下しながら、湯沢町神立地先で魚野川に合流します。

昭和 10 年の災害からの復興のため、大源太川では 3 基の砂防堰堤が計画されました。その計画により最初に着手されたのが大源太川第 1 号砂防堰堤で、手回し式の計算機の時代にアーチ式として完成しました。

アーチ式の堰堤は兩岸の岩盤が強固でなければ建設出来ないため数が少なく、国内でも珍しい砂防堰堤です。また、この頃は車や重機も少なく、工事のほとんどが人力で行われました。堰堤は地域の歴史的景観に寄与していることから、平成 15 年 7 月、有形文化財に登録されています。

** 女性モニターより **

- ・ 自然をうまく利用し、見た目にも美しく、先人の技術の高さと美的センスに驚いた。以前訪れた時は見過ごしていた。もっと PR したら、と思った。
- ・ 現地には家族で見学に行ったことがあるが、説明を受けて昭和 10 年にこれほどの技術の高さがあったことは、頭が下がる。せっかくのこの様なすばらしい堰堤があるのに下から見上げる事の出来ないのはいかにも残念。
- ・ 地域を守るために作られたものが、受け入れられその地域の観光スポットにまでなっていて、そこで生活する人々を潤していることも、素晴らしいと思った。



現地で質問をする女性モニター

<板木砂防堰堤>

大源太湖上流に位置する青少年旅行村。その上流部にある板木砂防堰堤は、大源太川第1号砂防堰堤と同じ昭和10年の災害をきっかけに着工、大源太川第1号砂防堰堤より1ヶ月早い昭和14年10月に竣工しました。通常の直線的な砂防堰堤です。過去60年間、下流に大きな被害を出すことなく、地域の安全を守っています。



説明を受ける女性モニター

女性モニターより

- ・砂防堰堤だと聞くまでわからなかった。小さな滝のような感じでマイナスイオンがまわりにいっぱい飛んでいて涼しい。景観にもマッチしている。
- ・大きな自然石をじょうずに使ってあり、美しいと思った。

<大源太川床固工群>

湯沢砂防では大源太川の中流部分で床固工群の整備を進めています。平成13年8月の大水では護岸の一部が被災しました。その後、整備を行うにあたり漁協の意見を聞き、より自然環境に配慮した、生き物が住みやすい多自然型の川づくりをしています。



大源太川の整備状況(平成16年撮影)



平成13年8月4日の出水被害状況



擬岩でつくられた魚道



川には魚が住みやすいように、所々に巨石を置いています。

女性モニターより

- ・ 集落に近くて気楽に行ける所がいいと思った。少々人工的な面も感じた。
- ・ 魚野川から運んで来た巨石に驚いた。災害を防ぐための機能や自然に生息する生き物の環境を守るための配慮が同時に考えられている事に感心した。
- ・ 階段部分のデザインが地場の十日町の織物工場で考案されたと聞いてもうビックリ。プレートに書いて階段部分にはめ込んで遊びにきた人達にも教えてあげたいと思いました。
- ・ 川遊びにつれていってやりたいと思える所だった。今年出来た所もアシなどの植物が育って魚がたくさんすめる川になると良いと思った。



モニターの皆さんが感心した階段護岸(十日町の織物屋のデザインによる型枠コンクリート製)



地域の子供達が親水護岸を利用していました。

<意見交換会>

意見交換会では見学の感想について活発に発言をいただきました。主なご意見・ご質問と湯沢砂防からの回答を紹介します。



意見交換会の模様



女性モニターから活発な意見が出されました。

Q. 見学会の帰り道、「まさに擬岩」とわかるような護岸があった。それは「擬岩」にする必要があったのだろうか？

A. 東橋付近は上流の滝も含め、湯沢のミニグランドキャニオンとして水遊び、観光として人が訪れている場所なので、周辺の岩に合わせて擬岩にしています。年数がたつと自然に溶け込んでくれると思います。

Q. 上流にあった古い堰堤は年月にさらされて自然に近くなってきて美しいと思うが、魚道が設置されていない。設置の優先順位が低いのだろうか？

A. 魚の生息範囲を見て設置の有無を決めています。今後も、必要なところから、魚の生態を考えながら魚道を設置していく予定です。

Q. これからも砂防工事は行われると思うが、歴史に残るような手間暇かけたものも 10 個に 1 つくらい作ってほしい。

A. 湯沢砂防で過去につくってきた施設には、有形文化財の大源太川第 1 号砂防えん堤などの歴史に残る施設があります。工事にあたっては様々な制約条件がありますが、住民の皆さんとよく話し合い、地域や自然に調和して住民の皆さんに長く愛される施設づくりを心掛けたいと思います。

Q. 自然まかせでは、安心して川遊びやキャンプを楽しむ事もできないので、少なくなっている子供達だからこそ安全に遊べるスペースが必要。工費との関係も重要なので住民の方々の意見を取り入れて進めてほしい。

A. 登川流路工では、河川公園など川と親しめる施設の例があります。今後も、魚沼自然塾に参加された皆さんや女性モニターの方々と一緒に考えていくことで地域の声を取り入れ、事業に活かしてゆきたいと思います。

Q. 夏の水遊びおすすめポイントなどは、県内情報誌への投書を行うなどしてはどうか？

A. 管内の主な砂防施設周辺で水遊びのできるポイントを、湯沢砂防ホームページの「水辺マップ」

(<http://www.hrr.mlit.go.jp/yuzawa/mizube/mizube1.htm>) で紹介しています。県内情報誌への投書は情報量の問題もあり難しいと考えられますので、「水辺マップ」の認知度が高まるよう工夫したいと思います。なお、川で遊ぶ際は事故のないよう気を付けて下さい。

Q. 地域の安全を考えるには、その地域の住民の声を反映させてほしいと願う。「何のために工事が必要なのか」を、もっと多くの人たち（多くの世代）にわかってもらえるような環境づくりも必要だと思った。

A. 湯沢砂防事務所では、地域を知り、災害に強い地域づくりについて共に考えて頂くため魚沼自然塾を開催しています。これまで多くの人に参加して頂き、目的はある程度達成されていると思われていますが、若い世代の方の参加が少ないため、当事務所としては広い世代の方々に参加して頂けるような企画や広報方法などを検討しています。



湯沢砂防ホームページの水辺マップ



引き続き女性モニターを募集します！

地域にお住まいの全ての女性の方が対象です。
ご応募お待ちしております。

《女性モニター制度》

湯沢砂防女性モニター制度は、地域の女性の方々にモニターとして登録して頂き、湯沢砂防事務所が開催するイベント等に参加して頂くことで、土石流などの土砂災害から地域住民の生命や財産を守る砂防事業を知って頂き、今後の砂防事業について共に考えるために設立された制度です。モニターの方から頂いたご意見・ご感想を基に、今後の砂防事業をより良いものに発展させてゆきたいと考えております。

応募先：雪国楽校応援隊（025-781-5556）
又は自然塾スタッフまでお気軽に声を掛けて下さい。

平成17年度 女性モニタースケジュール（予定）

第3回	9 / 3 (土)	第2回魚沼自然塾
第4回	9 / 12 (月)	現地見学会
第5回	10 / 5 (水)	現地見学会
第6回	10 / 15 (土)	第3回魚沼自然塾
第7回	11月上旬	現地見学会
第8回	12月初旬	意見交換会
第9回	12 / 17 (土)	第4回魚沼自然塾

* 見学地はモニターからの希望を尊重して選びます。

お問い合わせは

949-6102 南魚沼郡湯沢町大字神立23
国土交通省 湯沢砂防事務所
調査課（025-784-2073）まで